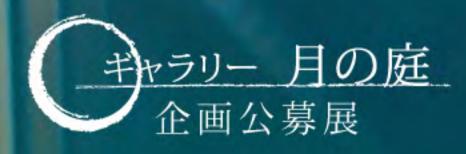
第18回公園の写真展



審査講評会:2月12日(水)審査員:

仲 隆裕(京都芸術大学/芸術学部教授) 林 直(写真家、大阪芸術大学/写真学科准教授)





国際宇宙ステーション」杉岡克典

国際宇宙ステーション ISS はアメリカ、日本、欧州各国、ロシアなど 15 ヵ国が協力して作られ、2011 年に完成した宇宙活動の拠点で、上空 400km にあり 90 分間で地球を 1 周するとのことですが、夜間に ISS に太陽光が照らされていることなど、様々な条件が揃わないと地上から目視できないようです。

けいはんな学研都市のシンボルである本公園には、各種研究の成果が世界へ大きく広がって行くこと、また公園での様々な交流が深まることを願って制作された野外彫刻「空にかける階段'94-XXV」(冨樫実氏作)があります。その上空を国際宇宙ステーション(ISS)が悠然と横切っていく様を捉えているところに、作者の意図や願いを読み取ることができます。国際協力と平和のシンボルであるISSには日本の有人実験施設もあります。その名は「きぼう」。感動的な1枚です。

星空輝く青い夜空に弧を描いて通過する宇宙ステーションの軌跡が目を引く写真です。 魚眼レンズの湾曲と公園のモニュメントにより、近未来の風景を切り取ったかのような印象を受けます。衛星の通過に際し、広々とその様子を鑑賞できる場所として公園を選ばれたのでしょう。大きく空を画面いっぱいに取り入れられたことで、より迫力を増す作品となっています。まさしく時空のチャンスをしっかりとキャッチされ、魅力ある作品として生み出されました。

林直



『自然との調和』をテーマとするけいはんな学研都市では、里山の環境を保全。再生しています。けいはんな記念公園にも棚田の風景を継承した広場やせせらぎ、じゃぶじゃぶ池があってミナミメダカやニホンアカガエル、アメリカザリガニなどが棲息しており、水遊びが楽しめることでも人気のあるスポットになっています。

寒さが緩み、桜の花が開き、暖かな陽射しが訪れる4月になると、子どもたちはさっそく 水辺に集まります。早くも半袖姿の子どももいますね。さて、何を見つけたのでしょうか? 教室内での学びとはまた違う、里山での学びの風景が、やさしい眼差しでとらえられた1

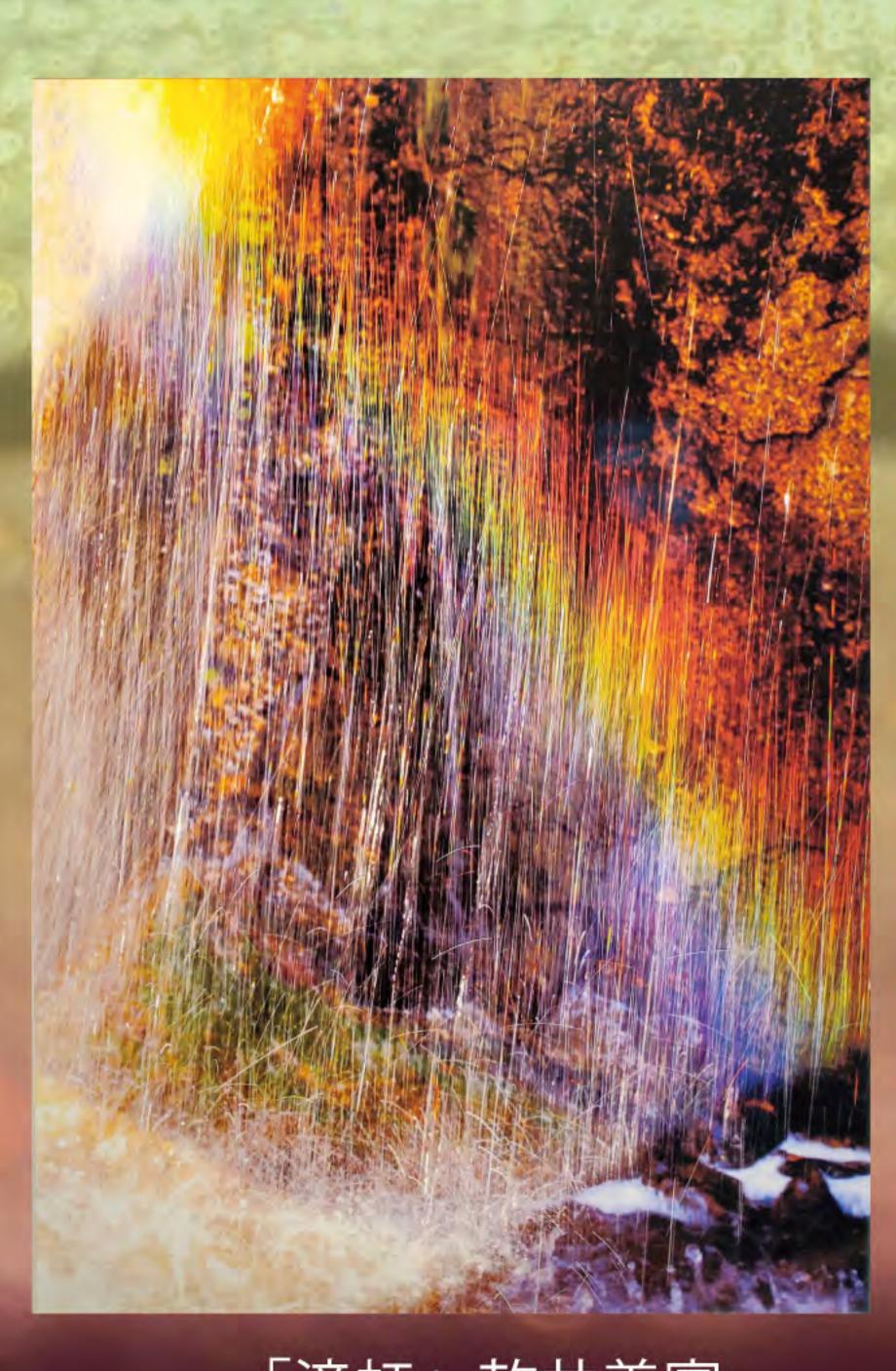
枚です。 仲隆裕



「春の校外学習」住岡新一朗

4月も半ばに差し掛かる頃でしょうか。花びらが浮かぶ水面を子供達が何かに惹かれて覗き込んでいます。横顔から伺える様子は楽しそうでもあり、と言って何がそこにあるのか、こちらからは窺い知ることができません。水面から顔を出す植物も新たな芽吹きの季節。そんな色々な要素が春の陽気とともに写真から滲み出てくるような感覚を覚えます。色んな要素があるものの、主題となった子供達がしっかりと画面の中で引き立って存在するあたり、とてもよく捉えられています。

林 直



「滝虹」乾井義實

水景園は、江戸時代に流行した回遊式庭園のスタイルを取り入れた 現代の日本庭園であり、園路を歩めば様々な風景に出会うことがで きます。園内には大小様々な姿の滝があり、永谷池の豊かな水を棚 田状に落とす水景棚は水平的な広がりを持つリズミカルな楽しさ を、高さ7mの御影石が150mにわたって連なる巨石群の中央から 流れ落ちる滝は垂直に落ちる力強さを、とそれぞれが異なる魅力を 発揮しています。さらにそれぞれの滝は、時間や季節の変化によっ てもまた、異なる美しさを見せてくれます。

この写真は、滝に虹が架かるという、稀な風景を見事にとらえています。この風景は「一期一会」であり、再び同じ姿に出会うことはない、という貴重な一瞬といえるでしょう。 仲 隆裕

巨石群から流れ落ちる滝の足元にかかる虹を見事に撮影された作品。飛び散る水飛沫をシャッタースピードの絶妙な選択により、それらの特徴を画面いっぱいに余すことなく表現されています。その様子はまるで夜空に上がる花火のようでもあり、写真らしい視覚体験を届けてくれています。非常に力強く大胆に切り取られた構図に隙はなく、画面の外に広がる滝の様子まで連想させてくれます。水飛沫に虹が見えるタイミングを、しっかり写真に写し止められたことの功績は大きいです。 林 直



「未来への架け橋」前田恵美



第18回公園の写真展

一般投票賞受賞作

投票期間: 1/25 ~ 2/16

ご来場の皆様に投票いただき、一般投票賞を受賞された作品です

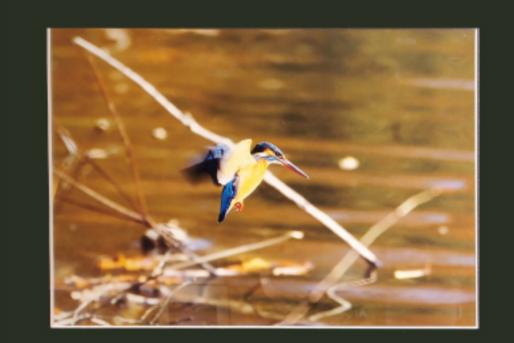


第 1 位 「『こんにちは』とご挨拶」 竹田洋祐

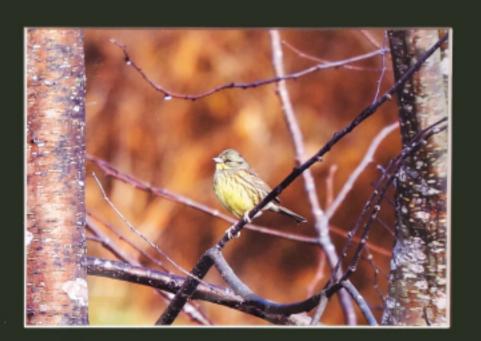




第2位 「水景園の青い鳥」 上川 清朗











第3位
「カツラ輝く観月橋」
竹田洋祐

